

「人をしてその言うところにまかせしめよ。^{なんじ} 汝、我が道を歩め」

堀田 香織

いつの、どなたの言葉かわからないのですが、ここ数年この言葉を卒業生に送っています。

私は小中学校時代、学校の嫌いな子どもでした。毎週、日曜日の夜、サザエさんが終わるころには憂鬱^{ゆううつ}な気持ちになっていたのを思い出します。大学のころには「自分はとてもではないけれども学校の教師にはなれない。むしろ学校に行くことが辛かったり、学校に行けなくなったりした子どもたちのそばにいたい」と考えて、心理臨床の道に進むことを決めました。今、日本では、いつだれが不登校になってもおかしくない時代と言われるようになりました。教室以外の居場所も以前と比べればたくさん用意されました。不登校だった子どもがやがて大学に進学して、カウンセラーになって活躍しているという例もあります。

「発達のU字曲線」という言葉をご存じでしょうか？人が発達していくときには、常に右肩上がりに発達していくわけではありません。しばらく平らなプラトー状態になることもあります。例えば、スポーツの練習を始めて、最初は

日に日にうまくなるのだけれども、中級に入るくらいになるとなかなかうまくはならない・・・長いトンネルに入って、それでも練習を続けていると、突然何かをつかんで、ぐんと成長するというような具合です。「U字曲線」というのは、平らになるだけでなく、いったん成長曲線が下がって、そこから一定期間を経てまた上がっていくことを意味します。その曲線がUの形になることから、「発達U字曲線」と呼ばれるようになりました。不登校の子供たちの中には、不登校になる前は長時間勉強することができていたのに、不登校になってからは全く勉強が手につかなくなるということがあります。また、不登校になってから幼児返りをして、赤ちゃん言葉を使ったり、お母さんと一緒に寝たいと言うようになっていたりすることもあります。これらは「退行」と呼ばれる現象ですが、そんな彼らも一定期間がたつと心を回復させて、また年齢相応の行動がとれるようになり、そこからまた成長を遂げていく、そんな大きな可能性に開かれた存在です。

長い人生のどこかで躓^{つまづ}いたとしても、心を癒して、充電できれば、また立ち上がれます。いつでも、何度でもやり直して、遠回りしてでも自分の道を切り拓^{ひら}いて歩んでほしい、そんな願いを込めて、卒業生に「人をしてその言うところにまかせしめよ、^{なんじ}汝、わが道を歩め」という言葉を送っています。そして、我々が生きる社会が、いつでも、何度でもやり直しのきく社会、自分の可

能性を自分らしく開花させることのできる社会であってほしいと願っています。

[2024.10.7 掲載]